

島根県立大学・島根県立大学短期大学部

松江キャンパス

令和 6(2024)年度FD報告書

1. FD 学内研修会の実施報告 p.2-4
2. 授業評価アンケートの実施結果
2-(1)人間文化学部 p.5-9
2-(2)短期大学部 p.10-14
3. 松江キャンパス独自の取り組み p.15
4. 松江キャンパス FD 委員会の今後の課題 p. 15-16
5. FD 委員会年間スケジュール p.17

令和 7 年 3 月 31 日
松江キャンパス FD 委員会

1. FD 学内研修会の実施報告

(1)今年度のFD研修会の実施状況(計10回)

令和6年度のFD研修会については、原則的に月1回開催される松江キャンパス会議終了後の30分～1時間程度の時間に対面で開催することとした。研修内容は、FD委員会主催の研修会のみならず、他の委員会の研修も共催とし、研修内容により教員・職員向けのFD・SD研修会を実施した。今年度のFD研修会の実施状況は以下のとおりである。

	開催日	テーマ	講師	参加者数
第1回	R6.4.17	ハラスメント研修	島根県立大学松江キャンパス副学長 岩田英作	56
第2回	R6.4.17	緊急性のある学生への対応	島根県立大学人間文化学部 前林英貴(保健管理委員会)	56
第3回	R6.5.15	障がい学生等に関連する合理的配慮と松江キャンパスにおける実例	島根県立大学人間文化学部 西村健一・宮崎潤子(障がい学生支援委員会)	62
第4回	R6.6.12	アドミッション県内受験生の動向・松江キャンパスの入試結果振り返り ・全国的な入試の動向	島根県立大学人間文化学部 福井一尊・今井靖(アドミッション委員会)	56
第5回	R6.7.10	研究倫理教育 e ラーニング (APRIN)の紹介と活用について	島根県立大学人間文化学部 内山仁志(研究倫理審査委員会)	50
第6回	R6.10.9	精神健康調査(UPI)について	島根県立大学人間文化学部 前林英貴(保健管理委員会)	55
第7回	R6.11.13	生成AI「Canva」の活用	都留文科大学 国文学部 野中潤教授	49
第8回	R6.12.11	大学業務における生成AI利活用	都留文科大学 国文学部 野中潤教授	102(視聴回数)
第9回	R6.2.12	秋学期授業公開の振り返り研修会	FD委員によるグループワーク	46
第10回	R6.3.13	合理的配慮に関する法律と、松江キャンパス内の障がい学生の現状と課題について	島根県立大学人間文化学部 西村健一・宮崎潤子(障がい学生支援委員会)	30回(視聴回数)

上記のFD研修会に出席できなかった教職員向けには、研修講師が許可した場合のみ、FD委員会の共有フォルダに研修データや資料を掲載し、後日研修資料を閲覧できるようにした。また対面の研修会だけでなく、オンデマンド形式での研修会も実施した(第8回・第10回)。

(2)FD 委員会主催の FD 研修会(計3回)

前年度(令和 5 年度)の第 7 回研修会では「生成 AI の現状と課題」と題して、生成 AI の仕組みから使い方、最新の動向について幅広く紹介され、生成 AI の基礎知識を得た。その際、今後これをどのように教職員の利活用につなげるかが課題として示されていた。このことを受け、今年度は、より校務や研究活動に資する生成 AI の具体的な方法について学ぶ機会として、外部講師による 2 回の研修会を実施した。

また、昨年度より実施について検討してきた学内の教員による授業公開(見学)も今年度は再開することとなったため、その授業公開(見学)期間終了後の2月の FD 研修会で、教員による振り返りの研修会を実施した。

① 生成 AI の活用に関する FD 研修会(第 7 回 FD 研修会)

日 時: 令和 6(2024)年 11 月 13 日(水) 13:20~14:50

※講師の許可を得て録画し、2025 年 2 月 28 日まで教職員限定公開した

演 題: 「Canva」の活用

方 法: 講師はオンライン(Zoom にて開催)、教職員は大講義室での対面

講 師: 都留文科大学 国文学部 野中 潤 教授

概 要:

AI ツールの教職員の校務への積極的な活用という観点から、Canva の活用方法について具体的に学んだ。Canva は、オンラインで利用できる無料のグラフィックデザインツールであり、61 万点以上のテンプレートと 1 億点を超える素材(写真、動画、イラスト、音楽)を備えている。また画像生成 AI 機能もある。ドラッグ&ドロップの直感的な操作により、誰でも簡単に多様なデザインを作成できるのが特長である。また、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットからも利用可能である。FD 研修会では、参加者には事前に Canva のアカウントを作成してもらい、当日は大講義室に各自の PC もしくはタブレット端末などを用いたハンズオン形式で、Canva を活用した具体的な各種文書などの作成方法の基本を学んだ。また研修会後も、講師の許可を経て録画したコンテンツをオンデマンドで一定期間視聴できるようにした。

参加者:49 名(教員および事務職員)

評価と課題:

講師によるハンズオン形式の講義を通じて、大学業務の未来を切り拓く新たな発想や実践的な知識に触れる貴重な機会となった。参加した教職員のアンケートには、「実践的な研修で良かった」「受講後、早速講義資料を Canva で作成した」など、内容に対する高い評価が寄せられた。これらの意見から、本研修が実務に直結する有益な学びの場となったことがうかがえた。

② 生成 AI の活用に関する FD 研修会(第 8 回 FD 研修会)

日 時: 令和 6(2024)年 12 月 11 日(水) オンデマンド視聴開始

※提供されたコンテンツは講師の許可を得て、2025 年 2 月 28 日まで教職員限定公開した

演 題: 大学業務における生成 AI 利活用

方 法: 講師が作成したオンデマンド教材(動画+ウェブ体験教材)による個人での受講

講 師: 都留文科大学 国文学部 野中 潤 教授

概 要:

本研修会では、論文作成におけるリサーチや推敲、データ解析、ルーブリックの作成と自己評価、さらには自動採点テストの作成や校務データの解析など、AI が大学業務にどのように貢献できるかについてオンデマンドの解説動画と実際に体験できるウェブ教材を通して学んだ。Google Gemini、Gamma、ChatGPT といった最新の AI ツールの活用事例が紹介され、講師の豊富な活用経験をもとに、教育・研究現場での活用方法について理解を深めた。

参加者:総再生回数 102 回(教員および事務職員)

評価と課題:

研修により、参加者は大学業務の効率化や教育の質向上につながる革新的なアイデアに触れる機会を得ることができた。受講した教職員のアンケートには、「最新の動向や実践例を知ることができ、大変参考になった」など、内容に対する高い評価が寄せられた。また、一定期間、録画を視聴可能としたことで、「研究室で落ち着いて繰り返し学ぶことができ、理解が深まった」といった研修の進め方に関する肯定的な意見も複数見られた。このように、実践的な学びと柔軟な受講環境を両立させたことが、受講者の満足度向上につながったと考えられる。

③「授業公開(見学)」実施後の振り返り研修会(第9回 FD 研修会)

日 時:令和 7 年 2 月 12 日(水)

演 題:秋学期授業公開の振り返り研修会

方 法:対面

概 要:

秋学期に実施した授業見学の振り返りとして、学科ごとに 6～8 名程度のグループに分かれ、授業見学の報告と生成 AI の活用状況などを共有した。

参加者:46 名

評価と課題:

授業見学で知りえた、他の教員の授業の進め方や学生への対応などを今後の自身の授業に取り入れたいなど、肯定的な感想が多く寄せられ、授業見学が授業改善のための貴重な機会となったと考えられる。一方、授業見学の実施時期や実施方法についてさまざまな改善提案が出されたため、次年度以降の実施に向けて引き続き検討する必要がある。

2-(1) 授業評価アンケートの実施報告(人間文化学部)

(1)目的:「学生自身の授業に取り組む姿勢」と「教員が行った授業」についてのアンケートを実施し、その結果を授業の工夫や改善に活用する。

(2)方法:学生情報システム「Unipa-web」のアンケート機能を使用した。

(3)実施期間:(春学期)令和6年7月11日(火)～8月16日(金)

(秋学期)令和7年1月23日(木)～2月14日(金)

(4)回収率

今年度も、授業評価実施率は両学期を通じて 100%であった。一方、回収率については春学期 48.8%、秋学期 46.4%であった。これらの数値は過去 3 年間で比べても著しく低く、最低値を更新し続けている。回収率を以前の水準に戻すこと、さらに高めていくことは、次年度以降の大きな課題である。科目ごとの履修者数と回収率の相関係数は $r=.183$ であり、「履修者が多いほど回収率が低い」とは言えない。

回収率が低迷している要因としては、授業評価アンケートの目的・意義が授業内で周知されていないことや、回答時間が十分に確保されていないこと等が考えられる。回収率を向上させるためには、これらの 2 点を徹底する必要がある。特に回答時間については、科目ごとのバラツキが大きい可能性があるため、具体的な目安を定めた方が良いと思われる。

(5)結果および考察

項目 D「総合的に判断して、この授業に満足している」の平均値は、春学期 3.57、秋学期 3.62 であった。授業への満足度は過去2年間を通して高水準で推移しており、上昇傾向も続いている。また、相関分析において、「B-3 知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容だった」「C-4 教員の説明は分かりやすかったか」が項目 D と強い正の相関を見せた点も、両学期で共通している。学生は知的好奇心の刺激や内容の分かりやすさを授業に求めているようである。ただし、先述したように、今年度は回収率が際立って低いため、実際の満足度や相関関係を反映していない可能性が高い。より正確なデータを得るためには、回収率の上昇が不可欠である。

加えて、非常に気かりなのは、現 3 年生の授業満足度が他学年に比して一貫して低い点である。こうした点については、個々の授業内での対応だけでは限界があるだろう。授業見学などを充実させ、授業改善に向けた取り組みを進めると同時に、履修指導や生活指導の観点からの対応も考えられて良い。相関分析の結果を踏まえると、授業満足度の向上には、授業内容を理解できることが必要であるが、履修科目の多さや実習による授業の中断、アルバイトによる睡眠不足、長時間のスマホ利用による学習効果の打ち消しなど、授業外の様々な要因によって授業内容の理解が妨げられている可能性も否定できないからである。

こうした、授業外の要因を特定するためには、UNIPA上のデータや学生生活実態調査の結果と連結させ、授業満足度との相関を分析する必要がある。そうした分析結果から、授業内で対応すべき部分と授業外で対応すべき部分とを峻別したうえで、履修指導や学生指導に活かすことが考えられる。

今後は、回収率向上に向けた取り組みを進める一方で、アンケートの分析方法そのものを再検討していく必要がある。

表1 アンケートの回収率(令和4～6年度)

	受講者数	回収数	回収率(%)
令和6年度 秋学期	3978	1845	46.4
令和6年度 春学期	4779	2332	48.8
令和5年度 秋学期	3938	2103	53.4
令和5年度 春学期	4538	3021	66.5
令和4年度 秋学期	3871	2367	61.1
令和4年度 春学期	4711	2771	58.8

表2 各評価項目の平均点数

項目	A1	A2	A3	A4	A5	B1	B2	B3	C1	C2	C3	C4	C5	D
内容	学生自身の学習について					授業内容について			授業方法について					総合
	授業全頁と二時間をはけた週の平均時間	シラバスを読み、授業内容や授業の到達目標などを理解把握した	授業の到達目標を意識しながら、授業に取り組んだ	自分の見識や興味を応えようと授業に努力した	最終的にシラバス等の授業の到達目標を達成できた	授業内容は、自分の水準に適していた	授業で教わる分量は適切であった	知的好奇心を刺激し、学習意欲を促す内容だった	準備が良くていて教員の熱意が感じられた	対面授業における板書、OJや視覚機器、配布資料などを有効に活用していた	学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた	説明はかりやすかったか	シラバスに書かれた授業の目的・目標・授業内容が実際の授業と乖離がなかった	総合的に判断してこの授業に満足している
学部全体														
平均(秋)	1.51	3.37	3.34	3.31	3.31	3.52	3.56	3.55	3.70	3.65	3.57	3.58	3.55	3.62
平均(春)	1.62	3.36	3.31	3.25	3.29	3.46	3.55	3.51	3.66	3.58	3.53	3.54	3.53	3.57
1年														
平均(秋)	1.42	3.41	3.40	3.29	3.31	3.58	3.56	3.58	3.74	3.66	3.60	3.59	3.57	3.67
平均(春)	1.75	3.44	3.42	3.26	3.35	3.56	3.66	3.60	3.75	3.65	3.63	3.66	3.62	3.67
2年														
平均(秋)	1.56	3.34	3.29	3.33	3.30	3.49	3.56	3.56	3.69	3.65	3.54	3.60	3.53	3.62
平均(春)	1.58	3.25	3.18	3.20	3.19	3.34	3.43	3.44	3.58	3.46	3.38	3.37	3.42	3.46
3年														
平均(秋)	1.60	3.37	3.27	3.29	3.33	3.48	3.51	3.45	3.62	3.61	3.55	3.52	3.54	3.50
平均(春)	1.43	3.25	3.15	3.21	3.21	3.32	3.37	3.30	3.49	3.50	3.41	3.38	3.35	3.41
4年														
平均(秋)	1.45	3.40	3.53	3.34	3.42	3.64	3.71	3.60	3.70	3.74	3.58	3.67	3.66	3.84
平均(春)	1.49	3.53	3.55	3.55	3.55	3.67	3.79	3.81	3.80	3.83	3.80	3.83	3.79	3.85
基礎科目														
平均(秋)	1.34	3.33	3.31	3.28	3.24	3.47	3.50	3.38	3.61	3.60	3.50	3.46	3.47	3.52
平均(春)	1.49	3.31	3.31	3.20	3.27	3.46	3.58	3.47	3.66	3.51	3.53	3.53	3.52	3.54
専門科目														
平均(秋)	1.56	3.38	3.34	3.32	3.33	3.54	3.57	3.59	3.72	3.66	3.59	3.62	3.58	3.65
平均(春)	1.66	3.37	3.31	3.27	3.30	3.46	3.54	3.52	3.65	3.60	3.53	3.54	3.53	3.58

保育教育 全体														
平均(秋)	1.23	3.33	3.33	3.22	3.33	3.57	3.55	3.51	3.69	3.63	3.51	3.58	3.52	3.65
平均(春)	1.24	3.22	3.23	3.21	3.22	3.41	3.49	3.40	3.50	3.42	3.39	3.45	3.38	3.50
保育教育 基礎														
平均(秋)	1.04	3.28	3.29	3.10	3.19	3.38	3.43	3.27	3.52	3.60	3.35	3.32	3.38	3.44
平均(春)	1.02	2.94	3.09	2.97	3.06	3.32	3.56	3.40	3.56	3.29	3.40	3.46	3.39	3.49
保育教育 専門														
平均(秋)	1.28	3.34	3.34	3.26	3.37	3.62	3.58	3.58	3.74	3.64	3.55	3.65	3.56	3.70
平均(春)	1.31	3.30	3.28	3.28	3.28	3.44	3.46	3.40	3.48	3.46	3.39	3.45	3.38	3.50
地域文化 全体														
平均(秋)	1.69	3.40	3.34	3.36	3.30	3.50	3.56	3.57	3.70	3.66	3.60	3.59	3.57	3.61
平均(春)	1.82	3.43	3.35	3.28	3.33	3.48	3.58	3.57	3.74	3.66	3.60	3.58	3.60	3.61
地域文化 基礎														
平均(秋)	1.53	3.36	3.33	3.40	3.27	3.53	3.55	3.45	3.68	3.61	3.59	3.55	3.53	3.56
平均(春)	1.71	3.49	3.41	3.30	3.37	3.52	3.58	3.51	3.70	3.62	3.59	3.56	3.58	3.56
地域文化 専門														
平均(秋)	1.73	3.41	3.34	3.35	3.31	3.49	3.57	3.60	3.70	3.68	3.61	3.60	3.58	3.62
平均(春)	1.85	3.41	3.33	3.27	3.31	3.47	3.58	3.59	3.75	3.67	3.60	3.58	3.61	3.63

表3 各選択肢の番号と点数化について

選択肢番号	1	2	3	4	5
選択肢の基準	プラス 評価	ややプラス 評価	ふつう	ややマイナス 評価	マイナス 評価
点数	4	3	2	1	0

図1 項目D(総合評価)の選択肢別割合

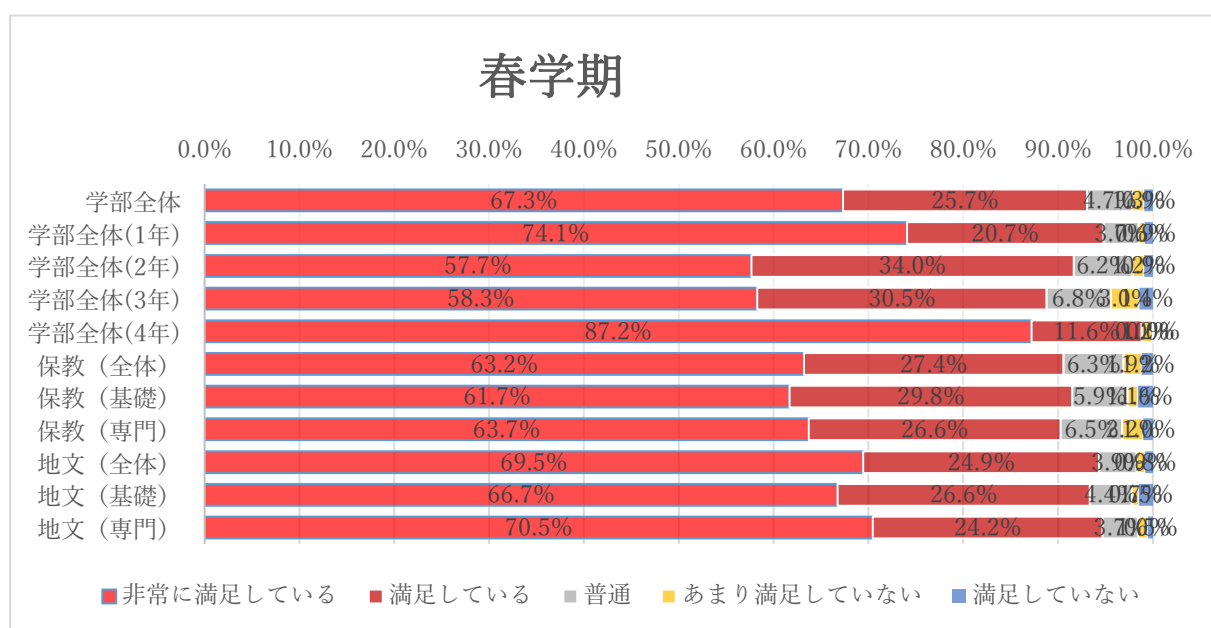
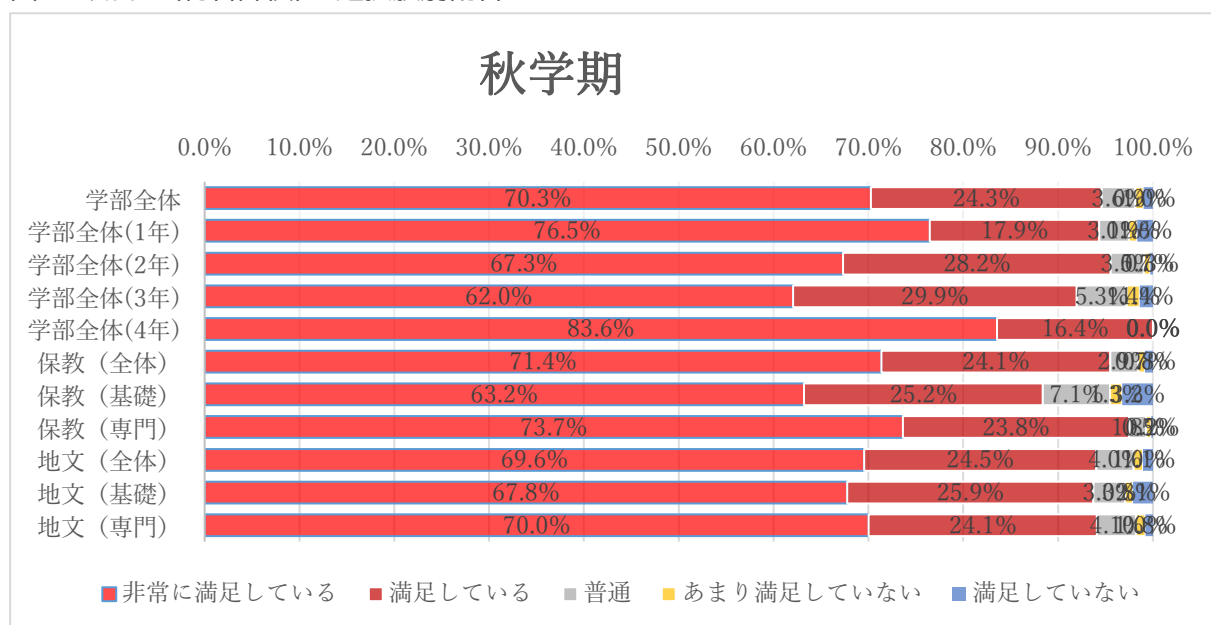
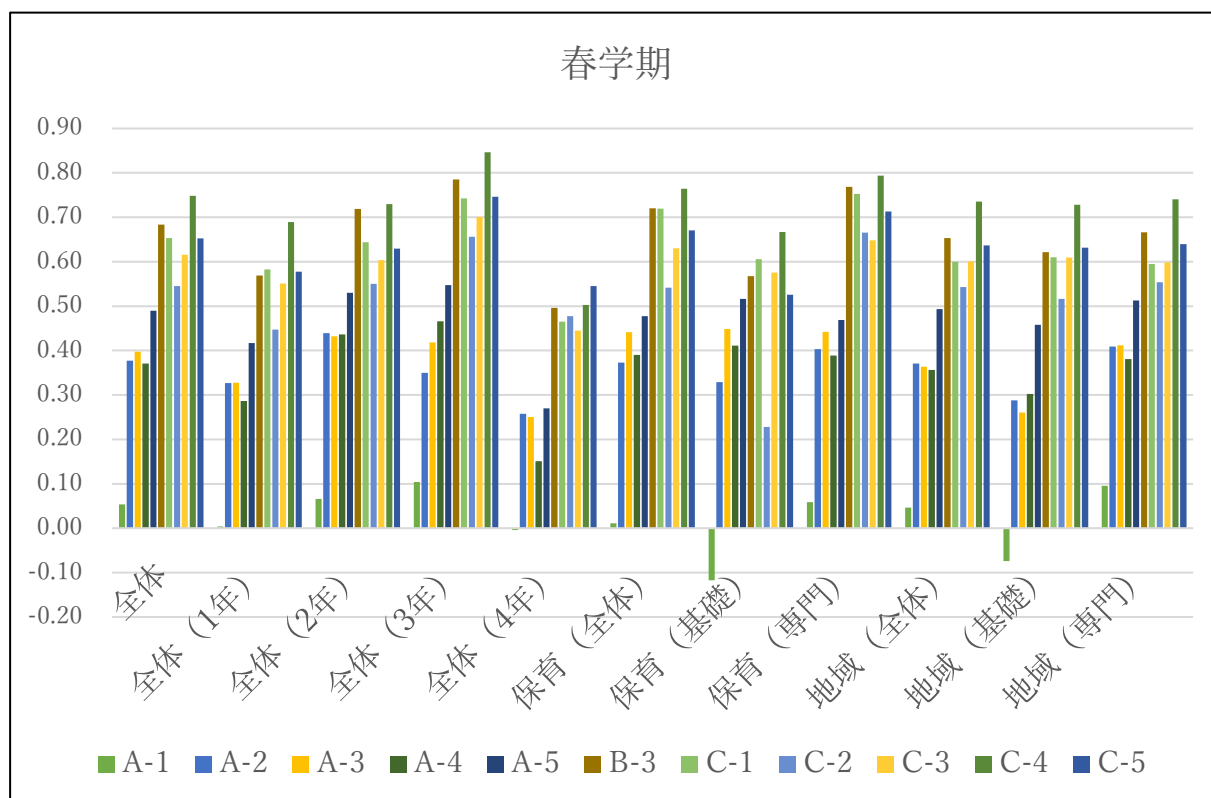
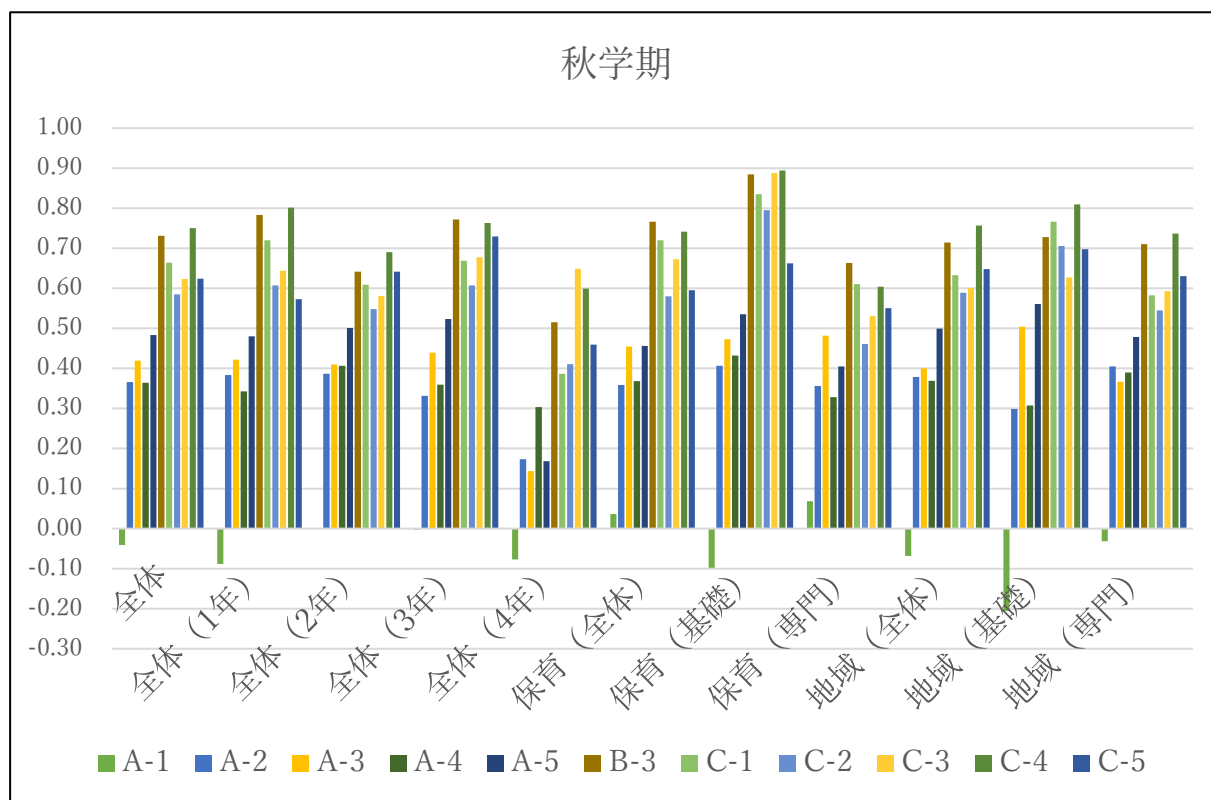


図2 項目 D(総合評価)と各項目の相関関係



2-(2)授業評価アンケートの実施報告(短期大学部)

(1)目的:「学生自身の授業に取り組む姿勢」と「教員が行った授業」についてのアンケートを実施し、その結果を授業の工夫や改善に活用する。

(2)方法:学生情報システム「Unipa-web」のアンケート機能を使用した。

(3)実施期間:(春学期)令和6年 7 月 11日(火)～8 月 16日(金)

(秋学期)令和7年 1 月 23日(木)～2 月 14日(金)

(4)回収率

短期大学部の授業評価アンケートの回収率は、表 1 の通り、春学期62.5%、秋学期44.4%であった。昨年度(春学期 76.9%、秋学期 72.8%)より大きく減少している。その理由として、特に秋学期に関しては、大雨や大雪等の天候不順、それに関連しての交通機関の遅延が例年以上に多く、授業の休講、遠隔の授業に変更の時期が授業評価アンケートのアナウンス時期に重なったことが要因として挙げられる。また一昨年度以降、コロナが明け、遠隔授業から原則対面授業に戻ったことで、この2年 FD 委員会からのアナウンス効果も少し薄れたと考えられる。

今後、回収率を 100%に近づけていくためには、例年と同様にまずは授業評価アンケートの意義をより一層丁寧に学生に対して直接周知することに加えて、ポータル画面上で担当授業の回収率をリアルタイムで確認できるようにして、未回答学生のフォローを可能にするなど、システム自体を再考することが考えられる。また例年FD委員会で議論となるが、8回授業受講者への周知も徹底する必要があると思われる。

(5)結果および考察

ア 評価実施授業全体としての結果

各評価項目についての平均値は表2の通りとなった。平均値は、選択肢を表3のように数値化し、合計を有効データ数(データ数－無記入数)で割った数値である。また、項目 D(総合評価)に占める各選択肢の割合を集計したのが図1である。

短期大学部全体で授業に対して満足している割合(項目 D に占める「非常に満足している」と「満足している」の割合の合計)は、春学期は94.4%、秋学期は 92.5%であった。学科別の評価(全体)では、春学期は保育学科 93.3%、文化情報学科95.8%、秋学期は保育学科 91.7%、文化情報学科 93.9%であり、短期大学部全体、学科ごとのいずれも例年通り、非常に高い数値を示している。

科目分類別に満足している割合を見ると、基礎科目は、春学期では保育学科 80.0%、文化情報学科 84.5%、秋学期では保育学科78.7%、文化情報学科89.7%であった。専門科目は、春学期では保育学科 92.6%、文化情報学科 91.5%、秋学期では保育学科 94.8%、文化情報学科 97.5%であった。春学期の基礎科目が両学科とも 85%以下と、全体の中では少し低い数値であるが、専門科目では両学科とも、90%以上で高い水準にある。

今年度の特徴として、春学期秋学期を通して、特に専門科目が高い数値を示した。その理由として、対面授業がほぼ復活したこと、回収率が低下した分、意欲のある学生の回答がデータに反映したこと、保育学科のカリキュラム改正や、昨年と同様に新学科としての文化情報学科

の新しい科目への期待と意欲が学生にあることが考えられる。

イ 項目 D(総合評価)と他の評価項目との相関関係

項目 D(総合評価)と関わりが大きい評価項目を明らかにするため、各設問との相関係数を算出した(図2)。短大全体としては、春学期は B-3(授業は、知的好奇心を刺激し、学習意欲を促す内容だった)、C-4(教員の説明は分かりやすかったか)、と総合評価の間に比較的強い正の相関が見られた。秋学期は B-3(授業は、知的好奇心を刺激し、学習意欲を促す内容だった)、C-1(準備が良くされていて教員の熱意が感じられた)、C-3(学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた)、C-4(教員の説明は分かりやすかったか)、C-5(シラバスに書かれた授業の目的・目標・授業内容が実際の授業で実施できていた)と総合評価の間に比較的強い正の相関が見られた。特に C-4 は、昨年と同様に学科別、科目分類別の統計でも、すべての区分で高い数値を示しており、とりわけ相関が強いといえる。

これに対して、A-1(授業外学習(予習・復習など)に時間をかけた(週あたりの平均時間で))と、新設の A-2(シラバスを読み、授業内容や授業の到達目標などを理解した)、A-3(授業の到達目標を意識しながら、授業に取り組んだ)、A-4(自分の見識や興味を広げようと授業内外で努力した)、A-5(最終的にシラバス等の授業の到達目標を達成できた)については、総合評価と関連性がみられなかった。これは、授業の満足が必ずしも学生自身の自発的な学習につながっていないことを示しているが、その前提として、そもそもシラバスを読んでいない学生が多いことが原因であろう。その理由として、やはりシラバスの紙媒体で配布を止めたことが影響していると思われる。また四大に比べて短大部における空きコマの少なさや、実習やフィールドワークの課題が多い点など、カリキュラムの特徴が関連している可能性があると思われる。この項目の取り扱いについては、改めて今後の検討が必要と考えられる。

表1 アンケートの回収率(令和4～6年度の回収率)

	学部	受講者数	回収数	回収率(%)
R06秋	短期大学部	1950	866	44.4
R06春	短期大学部	2000	1249	62.5
R05 秋	短期大学部	1795	1306	72.8
R05 春	短期大学部	1918	1474	76.9
R04 秋	短期大学部	1696	1289	76.0
R04 春	短期大学部	1997	1568	78.5

表2 各評価項目の平均点数

項目	A1	A2	A3	A4	A5	B1	B2	B3	C1	C2	C3	C4	C5	D	
内容	学生自身の学習					授業内容について			授業方法について					総合	
	など(予習・復習)に時間を	授業外学習の割合	授業内容の読み込み	シラバスを授業の到達目標と意識しながら	授業の到達目標や興味を自分の見識と広げよう	最終的にシラバス等の授業の到達目標	自分の水準に達していた	授業内容は、切であった	授業で教わる分量は適量	授業の分量は適切であった	教員の説明が、熱意が感じられ、準備が良く、わかりやすい	対面授業に、対面授業に、対面授業に、対面授業に、対面授業に	教員の説明が、熱意が感じられ、準備が良く、わかりやすい	シラバスに書かれた授業の目的・目標・授業内容が実際の授業で実施できていた	授業の到達目標を達成できた

短大全体(平均)														
秋	1.50	3.39	3.43	3.30	3.42	3.53	3.57	3.53	3.68	3.66	3.57	3.57	3.59	3.60
春	1.46	3.32	3.32	3.25	3.32	3.47	3.51	3.51	3.65	3.58	3.49	3.48	3.52	3.60
短大全体基礎科目(平均)														
秋	1.32	3.30	3.40	3.23	3.24	3.33	3.36	3.30	3.54	3.52	3.37	3.39	3.44	3.35
春	1.21	3.25	3.27	3.12	3.25	3.38	3.50	3.52	3.63	3.42	3.49	3.48	3.51	3.56
短大全体専門科目(平均)														
秋	1.57	3.42	3.44	3.33	3.49	3.60	3.65	3.62	3.73	3.71	3.64	3.64	3.65	3.70
春	1.53	3.34	3.33	3.28	3.33	3.49	3.51	3.51	3.66	3.63	3.48	3.48	3.52	3.61
保育 全体(平均)														
秋	1.33	3.27	3.32	3.18	3.38	3.49	3.53	3.46	3.64	3.62	3.52	3.52	3.52	3.57
春	1.36	3.26	3.27	3.22	3.35	3.47	3.47	3.47	3.64	3.55	3.45	3.44	3.50	3.57
保育 基礎(平均)														
秋	1.12	3.09	3.21	3.01	3.15	3.07	3.17	3.07	3.36	3.37	3.19	3.19	3.24	3.15
春	1.04	2.96	3.01	2.82	3.13	3.13	3.33	3.37	3.48	2.97	3.34	3.36	3.35	3.43
保育 専門(平均)														
秋	1.38	3.32	3.35	3.22	3.43	3.58	3.61	3.56	3.70	3.68	3.59	3.60	3.59	3.67
春	1.41	3.30	3.31	3.28	3.38	3.52	3.49	3.48	3.66	3.63	3.47	3.46	3.52	3.60
文化情報 全体(平均)														
秋	1.82	3.61	3.64	3.54	3.49	3.60	3.65	3.66	3.75	3.73	3.66	3.67	3.71	3.66
春	1.59	3.40	3.38	3.28	3.27	3.47	3.56	3.57	3.67	3.63	3.53	3.52	3.55	3.63
文化情報 基礎(平均)														
秋	1.48	3.47	3.54	3.41	3.32	3.54	3.51	3.49	3.68	3.63	3.51	3.56	3.60	3.51
春	1.29	3.40	3.40	3.27	3.31	3.50	3.58	3.59	3.70	3.65	3.57	3.53	3.59	3.62
文化情報 専門(平均)														
秋	2.12	3.72	3.71	3.64	3.65	3.65	3.76	3.81	3.81	3.82	3.78	3.76	3.81	3.79
春	1.75	3.40	3.37	3.28	3.26	3.45	3.55	3.55	3.65	3.62	3.51	3.52	3.53	3.64

表3 各選択肢の番号と点数化について

選択肢	1	2	3	4	5
選択肢の基準	プラス 評価	ややプラス 評価	ふつう	ややマイナス 評価	マイナス 評価

点数	4	3	2	1	0
----	---	---	---	---	---

図1 項目D(総合評価)の選択肢別割合(上図:秋学期、下図:春学期)

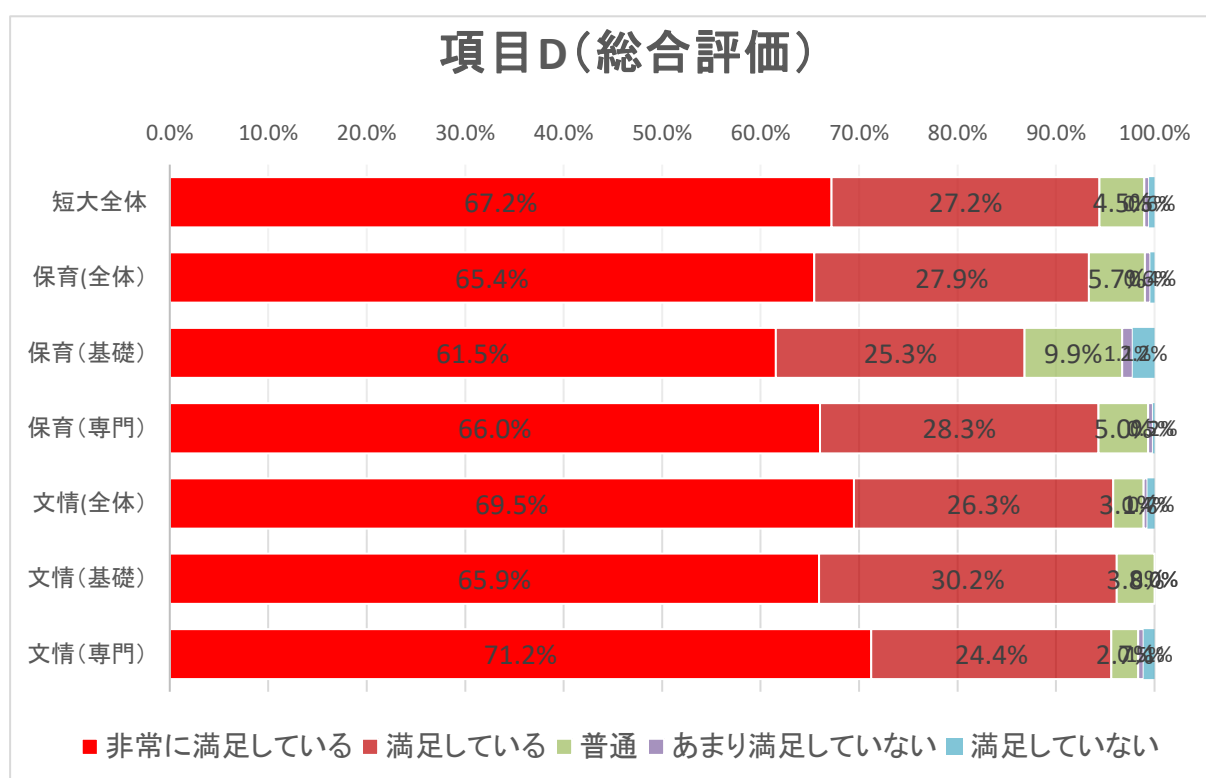
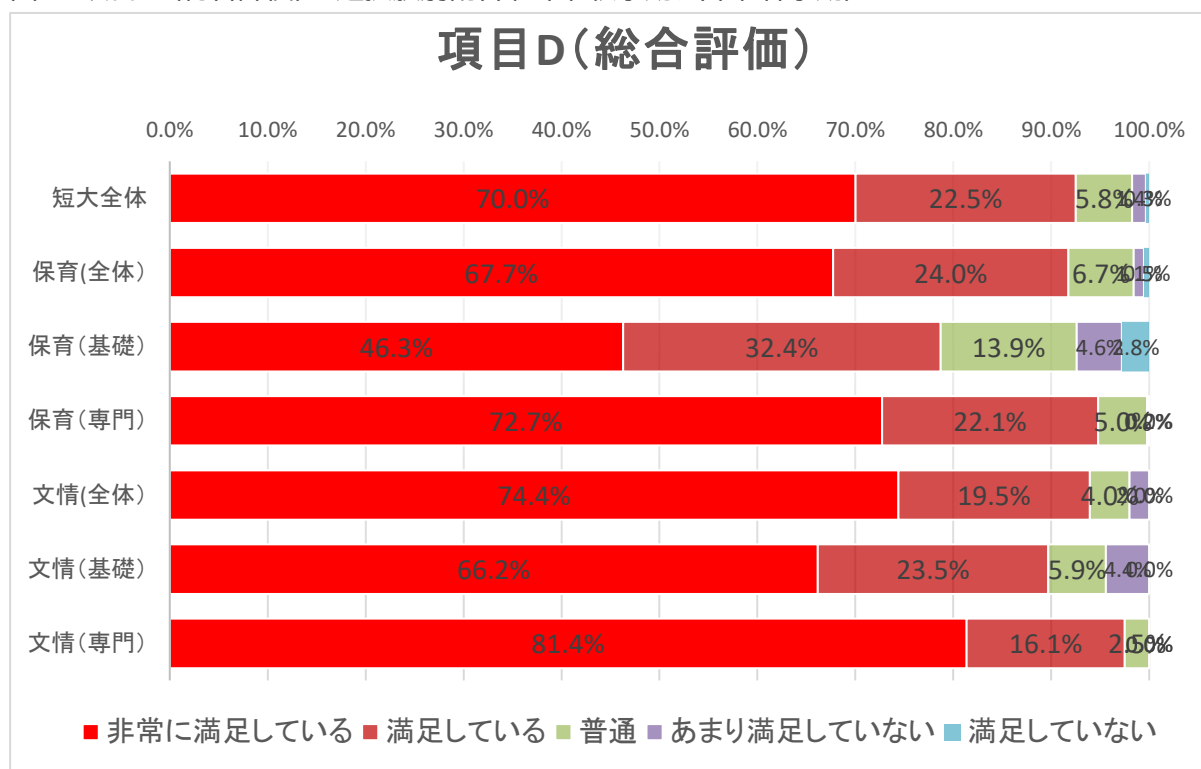
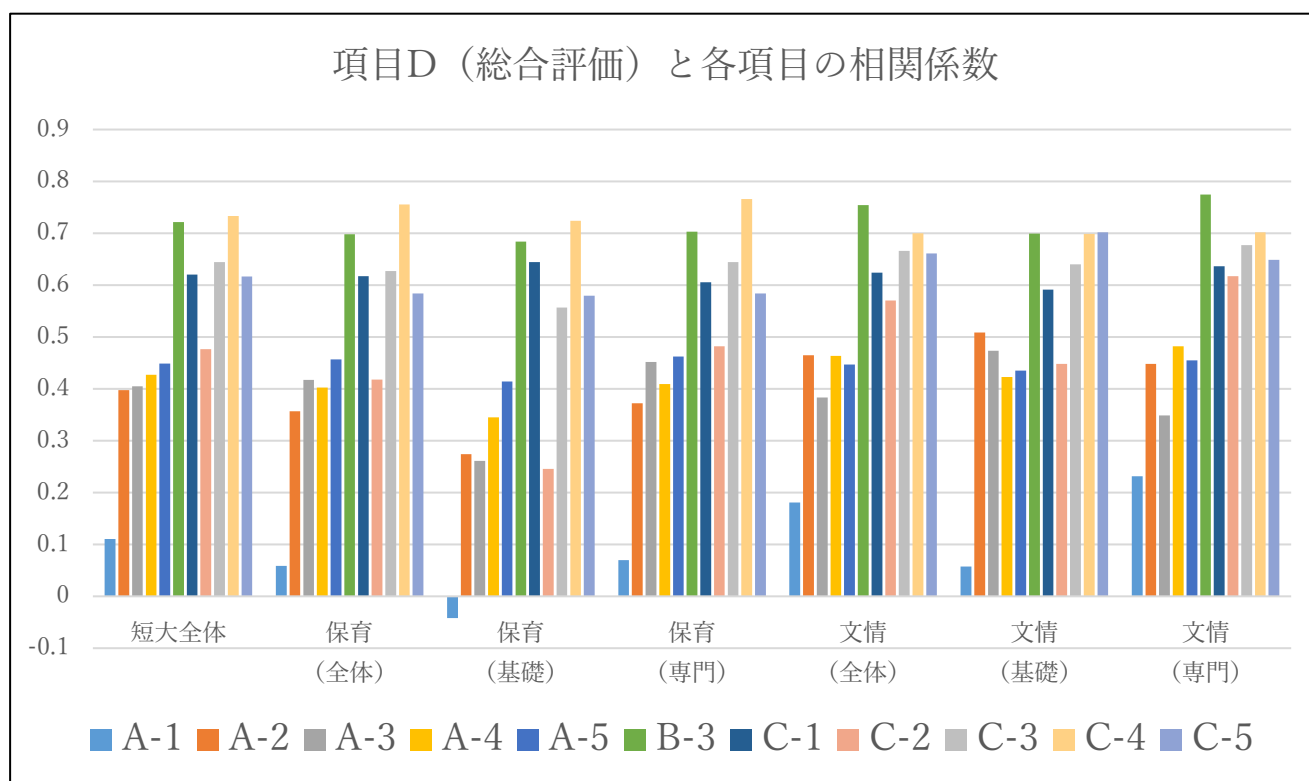
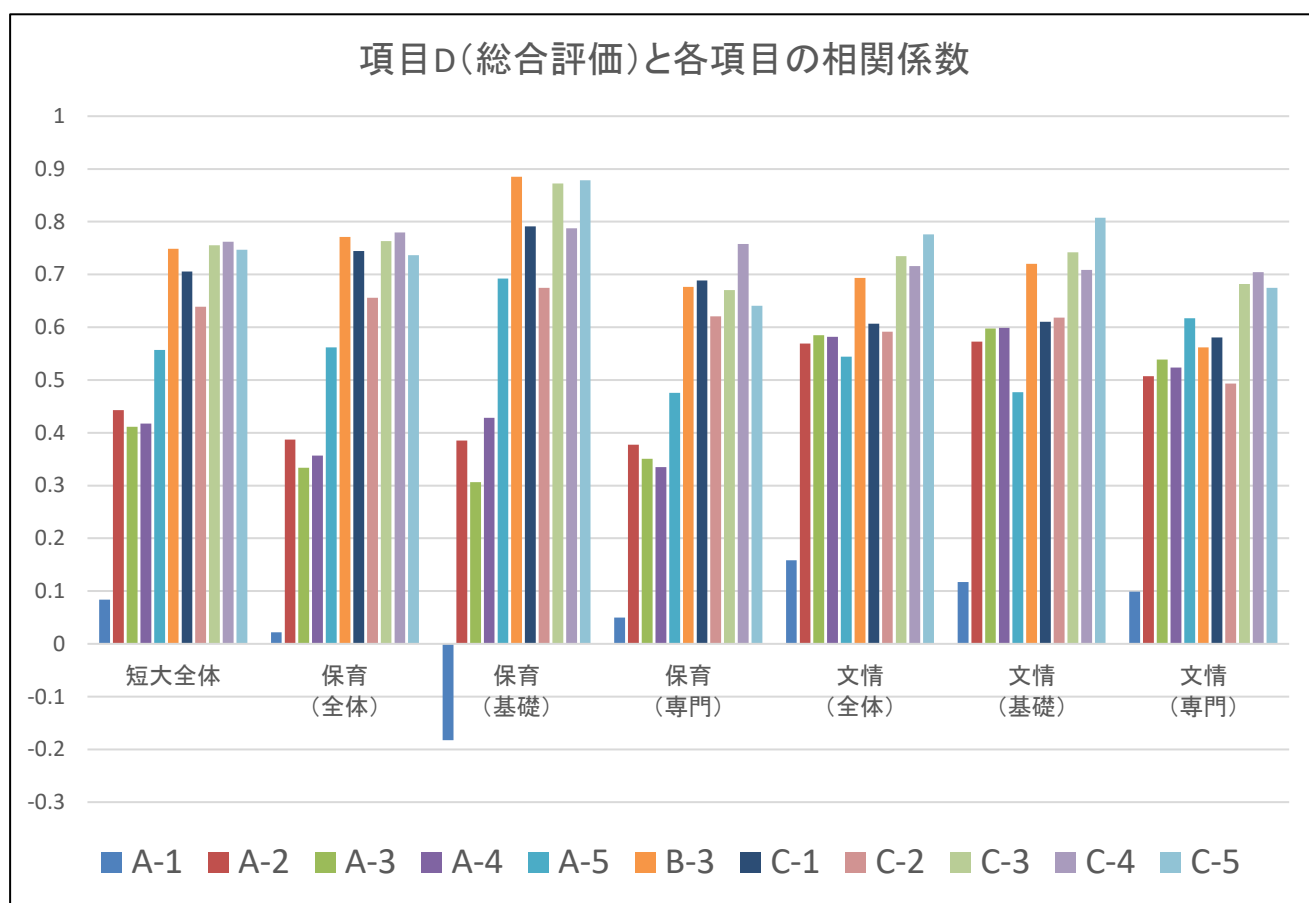


図2 項目 D(総合評価)と各項目の相関関係(上図:秋学期、下図:春学期)



3. 松江キャンパス独自の取り組み

(1) 近隣の大学の FD 活動の意見聴取(2025 年2月)

令和 3 年度から FD 活動に関して学外の第三者の意見聴取を行ってきたが、本年度は島根県立大学出雲キャンパス FD 委員長との意見交換を実施した。令和 7(2025)年 2 月 5 日に、小山 FD 委員長、雪吹学務課長、近藤学務課主事の 3 名と島根県立大学出雲キャンパス FD センター長の亀山良子教授と Teams により両キャンパスの FD 活動の状況の意見交換を行った。

島根県立大学出雲キャンパスでの FD 活動は、看護学科や健康栄養学科特有の FD の方針や実施の話も挙がったが、松江キャンパスにも共通する悩みや FD の実施方法の助言も得られ、相互に意見交換する機会を設けた意義を感じた。

(2) 授業評価アンケート実施に対する Web システムの活用

松江キャンパスでは、学生が授業評価アンケートを回答する際や教員の授業評価アンケートの結果を参照する際に UNIPA システムを利用している。このことにより、回答学生が時間の制約を受けずにアンケートに記入できる点と、アンケート集計を効率的に集計が出来るといった利点が挙げられる。

また専門業者によるデータ分析の結果を基に FD 委員会でアンケート調査概要および分析を作成し、全授業担当者に配布している。そのことにより、学科別の比較や教員が担当科目の結果について学科平均等と項目別に比較することを可能とし、授業改善に活用している。

4. 松江キャンパス FD 委員会の今後の課題

(1) 授業評価アンケートの実施と教員フィードバックの回答率について

① 授業評価アンケート

昨年度より自己点検・評価委員会の教務委員会の回において、授業への取組シート(学生自身が自らの授業への取組を省察するシート)の提出を求めるという旨の課題が出されていた。今年度は教務委員会で上記課題について継続審議され、また大学基準協会の短期大学部認証評価との関連から、FD委員会でも授業評価アンケートに学生自身の自己評価についての項目の検討を教務委員会から依頼されたことを受け、再度授業評価アンケートの質問項目についてFD委員会で協議し、学生自身の授業への取り組みに関する 4 項目の質問事項を追加して令和 6 年度春学期の授業評価アンケートを実施した。これにより、学生の大学の授業に向かう姿勢や意識、学びの状況などが各授業単位で確認できることになった。

授業評価アンケートの実施率は 100%であったが、年々、学生の回答率の低下傾向が見られる。改めて授業評価アンケートの目的・意図を授業内で周知する、回答時間を授業内で確保するといった具体的対策の強化とともに、アンケート実施上のシステム自体の再考が必要であること、授業評価を拒否する一定の学生の意思も検討する、等々の必要があると思われる。

② 教員フィードバックレポート回答率

令和 5 年度の春学期以降、教員フィードバックレポートの回答率が 100%になり、令和 5 年度秋学科と令和 6 年度春学期も回答率が 100%であった。新学期開始前後の多忙な時期での実施であり、回答期間が短い点については改善の余地があったため、回答期間を 1 週間延長して設定した。また未提出者にはFD委員長、FD事務職員からの再度の提出依頼を重ねたことにより教員全員からの

提出結果となった。今後もフィードバックレポートの提出率 100%を目指して、未提出の教員に働きかけていきたい。

(2)FD 研修会の研修内容・研修方法の検討について

昨年度末の副学長・人間文化学部長・短期大学部長・事務部長と各専門委員会委員長との意見交換会の中で、今年度は松江キャンパス会議と学科会議を第 2 水曜日に実施するが、キャンパス会議のあとの 30 分～1 時間を毎月、FD 研修会の時間として枠を確保し、必要がある時に FD 研修会や他の委員会と共催の研修会などを実施することになった。今年度は、月 1 回対面方式で開催される松江キャンパス会議のあとに、引き続き FD 研修会の時間を設け、また FD 委員会主催の研修会のみならず、他委員会の研修会を FD と共催で FD 研修会として実施した。キャンパス会議のあとの時間に設定したことにより、必然的に FD 研修会の出席率が向上したこと、初めての試みであるため、他の委員会からの共催研修会の要望が多く上がり、最終的に年 10 回の FD 研修会を実施することができた。教職員からは、多くのテーマに関する研修会が実施されてよかったことや、会議日が水曜日に集約されたことによるメリットも聞かれた。一方で、松江キャンパス会議と学科会議の間に FD 研修会を行うことによる時間的な負担感や研修会の回数が多いことによる負担感なども挙げられた。次年度は今年ほど研修会の実施要望が出されるかどうかは分からないが、受講する教員の負担軽減も図るような形での FD 研修会の実施を次年度以降も続けていきたい。

(3)授業公開(見学)と振り返りの FD 研修会について

新型コロナウイルス感染症により中断していた授業公開(見学)を、令和 6 年度秋学科に再開した。実施方法はコロナ以前の形に戻し、学科内外を問わず教員同士で授業を見学できるように実施すること、授業見学者は見学後に授業見学記録を作成し、授業公開者と FD 委員会に授業見学記録を提出することとした。その後、2 月の FD 研修会では学科別の授業の振り返りの研修会を実施した。

今年度は授業公開(見学)期間を令和 6 年 11 月 20 日から令和 7 年 1 月 31 日までの長期的な期間で実施した。授業見学記録は、47 教員中 38 人が提出するなど 80.9%の実施率であり、教員の教育力の向上や大学内の組織的教育の確立を目指すことが FD 研修会でも話し合われたことが成果であった。次年度は、FD 研修会で挙げられていた実施時期や実施方法の課題点について、さらに検討・改善を図っていきたい。

【参考】

FD委員会 年間スケジュール

委員会の定期開催日程：第3水曜日

春学期		秋学期	
月	項目	月	項目
4	●前年度秋学期授業評価アンケートのフィードバック率の報告 ●今年度当初予算の確認 ●FD 委員内の業務分担(授業アンケート関係、学内研修関係、FD 活動報告書作成) ●キャンパス会議後研修の運用決定	10	● 授業担当教員へフィードバックレポートの回答依頼 ● 春学期授業評価アンケートのフィードバック率の報告
5	●学内 FD 研修会の計画 ●今年度春学期授業評価アンケートの実施日程の決定	11	● 学内 FD 研修会の実施【年1回以上実施】
6	●学内 FD 研修会の研修案の決定(研修テーマ・実施日時)	12	●秋学期授業評価アンケートの日程案の決定 ●次年度 FD 計画・今年度業務実績報告
7	●春学期授業評価アンケートの学生回答	1	● 秋学期授業評価アンケートの学生回答
8	● 春学期授業評価アンケートの集計・とりまとめ(事務)	2	● 秋学期授業評価アンケートの集計・とりまとめ(事務) ● 秋学期授業評価アンケート報告書の作成(FD 委員)
9	●春学期授業評価アンケート報告書の作成(FD 委員) ●授業担当教員へ授業評価アンケートの結果を配布 ●授業担当教員へフィードバックレポートの回答依頼	3	● 授業担当教員へフィードバックレポートの回答依頼 ● 今年度 FD 委員会活動報告書の作成 ● 今年度 FD 予算の執行

※この他にも、キャンパス会議後の時間で他委員会等主催の研修会を FD 研修会との共催の形で実施